



# る う て る

2011年  
**9**月  
No.765

■発行所■  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区区市谷砂土塚町1-1  
電話 03-3260-8631

■振替口座 ■00190-7-71734  
■ウェブサイト ■http://www.jelc.or.jp  
■E-mail ■jelc@jelc.or.jp  
■発行人 ■徳野昌博 m-tokuno@jelc.or.jp  
■印刷人 ■精文堂印刷株式会社  
■定 価 ■1部 40円 (郵便送料を含む)

## 説教 「雑草のしぐさ」

イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」  
マタイによる福音書13章31〜32節



「クロガラシは、イスラエルではかなりの高さまで成長するアブラナ科の一年草で二メートルくらいはある」 廣部千恵子著『新聖書植物図鑑』からの引用です。聖書に出てくる「からし種か、どんな植物の種かということには、議論もあるようですが、それが、一年草であり、栽培種というよりも、むしろ雑草に近いものであったことは確かかのようにです。

「プリニウスの『自然誌』によれば、「火のような辛さのあるからし菜はとて強い野菜で、水や肥料をやらなくても勝手に育って勝手に種をまき散らしてはびこっていく。そのため、農民はからし菜が自分の畑に生えてくるのを恐れていた」のだそうです。わざわざ植えて育てたり育てたりしなくても、野原に行けば、いくらかでも摘んでくることのできるような草、堂々とした大木というよりは、高々二メートルの大ぶりの雑草、そのようなものとしてカラシの木は存在します。

聖書の中には、もつと天の国にふさわしい木が



ありそうです。たとえば、ダニエル書四章七節以下には、「大地の真ん中に、一本の木が生えていた。大きな木であった」と書かれており、この木は「その木陰に野の獣は宿り／その枝に空の鳥は巣を作り／生き物はみな、この木によって食べ物を得た」とされています。また、エゼキエル書三二章三節以下では、エジプトを喩えて「糸杉、レバノンの杉だ」と語られています。この木は、「その丈は野のすべての木より高くなり・・・中略・・・大枝には空のすべての鳥が巣を作り／若枝の下では野のすべての獣が子を産み／多くの国民が皆、その木陰に住んだ」と言われる程、巨大なものです。

それにもかかわらず、イエスは、天の国を、一年で枯れてしまう、高々二メートルほどの雑草に喩えられました。この喩え方の中に、雑草のしぐさとさといふ隠れたテーマが浮かび上がってくるよ

うな気がします。カラシ種は、すぐ枯れてしまう植物ですが、空の鳥に媒介され、その小さな種を広い範囲に撒き散らし続けます。そして、たとえ、その年の草がすべて枯れ果てたとしても、翌年も、また次の年も、そこいら中に、新しい芽をふき、根を張り、実を結び続けるのです。それは、実にしごとく、世の移り変わりにも耐えて、広がり続けていく、息の長い神の支配、それも喩えは語っているのではないのでしょうか。

ひるがえって、「人口の1%にも満たない」と常々、嘆きをとまなつて語られる日本伝道の現状について目を向けてみましょう。そもそも、「にも満たない」という後ろ向きなマイナスイメージが問題です。雑草の種は、たとえ枯れ果てたとしても、翌年、また次の年と、しごとくはえかわって生き続けていきます。人口の1%、百人に一人もあれば十分とも言えるのです。雑草の強さは、生きる強さです。栽培種の野菜であれば、たとえば、曲がったきゅうりは出荷できないというように、存在それ自体よりも、その外見や内容に左右されてその存在意義が問われるのですが、雑草にはその

ような区別はありません。たとえ捻じ曲がって生えていても、生きていさえすればそれは雑草としての存在を主張するのです。

大部分の種は、「良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった」(マタイ福音書一三章八節)と書かれています。しかし、その歩みは、決して「一筋縄でいかないものだろう」と思います。時には捻じ曲がり、時には見失い、よれよれに曲がって、それでも生きていく、そういう信仰だつてあって良いはずです。

日本のような多宗教社会において、キリスト教というものの純粹さを追求する必要のあったことはわかります。ただあまりにも純血を求め、崇高な精神性にばかり依拠してきたところに、日本キリスト教の弱さも、また垣間見えるのです。主イエスは、天の国をカラシダネに喩えられました。その雑草的強さをも含めて、この事も覚えながら歩んで行きたいと思うのです。

小岩教会教師  
松田繁雄

### 東日本大震災 救援募金

日本福音ルーテル教会の「連帯献金」を通して、被災者救援のために使います。仙台市内にあるルーテル教会と連絡をとり合いながら、救援活動を行なっています。

■緊急募金の送金先■  
郵便振替用紙に「東日本大震災」と明記して下記の口座にご送金下さるようお願いいたします。

郵便振替：00190-7-71734  
名義：(宗)日本福音ルーテル教会

### ルターによせて(5) 神学論争家ルター

日本の国会論議のみならず新聞の論説の中でもしばしば登場する用語に「神学論争」という言葉がある。その意味用法としては、「不毛な、非現実的な、結論の見えない議論」と言った意味で使われる。だから、ほとんどの場合、「神学論争はやめよう」と言った具合に否定的に語られる。日本の言論の府である国会における議論の決め科白の一つがこれらしい。余りにも世界の歴史を知らない言辭であると言わざるを得ない。

ルターは宗教改革は世界的な出来事だが、その発端は、贖宥状(免罪符)にも世界の歴史を知らない言辭であると言わざるを得ない。

私たちが、人間と歴史、経済、社会を見据えて、ルターのように、大いに「神学論争」を語り出すべきなのではないか。

関する神学論争であったことはあまねく知られている。有名な「九十五箇条の提題」を始め、ルターはその生涯で六十以上の神学論争文を残している。体系的著作を持たないルターの思想の真骨頂はそれらの論争書にこそあらわされている。更には、ルターから始まったプロテスタントイイズムの倫理が現代のグローバルな世界を揺さぶり続ける資本主義を形成する萌芽となったというのがM・ウェバー以来の現代社会学の通説なのだ。

### リラ・プレカリア (祈りのたてず)

#### 4期生募集中

(研修期間:2012年4月~2014年3月)

資料請求・お問合せはJELA事務局まで。  
Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523  
eMail:jela@jela.or.jp  
URL:http://www.jela.or.jp



日本福音ルーテル教会の社会福祉施設紹介 その17

ルーテル作業センター

ムゲン

施設長 佐野卓志

ムゲンは現在就労継続支援B型という事業所として、古本屋をオープンしました。まだデイク名、職員は5名です。ぼくは統合失調症という精神病の当事者です。2回計5年の入院歴がありま



ムゲンは23年前に、ぼくやぼくの奥さんの波津子さんと数名の当事者が一緒になって、障害者の

てきました。本当に行く場所の無い人たちでした。行政にも援助金交渉でいきま

ゲンに入れていいる状態でした。家賃を溜め込んで、払うアテも無かったので、そこを2年で出ることに

私の本棚から

森博嗣著 『喜嶋先生の静かな世界』 講談社 2010年



「その一冊を読むことで得られた経験が、たぶん僕の人生を決めただろう。意味のわからないものに直面したとき、それを意味のわかるものに変えていくプロセス、それはとても楽しかった。」

無関心は人それぞれ違うこと、好きなことだけやっていては世の中生きていけないこと、道理にかなわないことに遭遇すること、不条理なことが起こること、だからこそ他人の思いに振り回されない生き方をしてもいいということ

このようにご託を並べると面白くない本のよう

「私の本棚から書くにあたって、少しく自紹介をします。テレビのない家庭で育ち、幼稚園に入る前から一人で近くの市立図書館へ、そして、当時としては珍しくきん

あった父の影響です。職場の図書館で本を手にする場合は、ほとんどが目次読み、要領読みですが、私的に読む本は風景や情景が映像として浮かび、登場人物の表情や息が感じられる小説が多く、急いだ読み方はしません。読んでいる時は意識していませんが、クリスチャンであることが読み方に影響している、読後感を楽しむ時にいつも思います。

熊本教員、九州ルーテル学院大学図書館司書 水谷江美子



救済活動レポート

台湾ルーテル教会のボランティア活動

8月1日訪日した台湾ルーテル教会の奉仕団は鳥日聖光堂（台中市）の彭台鳳さんをリーダーに同教会の5名、台中市の台中基督堂の1名、台北市の台北真理堂の2名、士林真理堂の4名の12名

8月2日は被害の大きかった東松島市の野蒜小学校、宮戸島地区、石巻市ボラセン、被災した市街地、女川町、雄勝地区、多くの児童・教師が避難した大川小学校を立野牧師の案内・説明で見学

に近い河北地区・尾の崎の民家のガレキの選別・片付け、北上町保健医療センター「ひまわり周辺の津波で被災した農地の草取り、民家の下水のヘドロ掻きに従事しました。北上川の堤防を越えた津波は

「遠い台湾、オーストリアからも助けに来てくれた。畑が再生でき、秋野菜の種・苗が時ける。自分たちだけでどうしようもなかった」

の七夕祭りの雰囲気味わい、8日に無事、帰国しました。同行者 木村 猛（保谷教会）



(次号に続く)

### フィンランド短期研修報告 出会いの旅

飯田教会牧師

大宮陸孝

6月5日(日)から7月4日(月)までの1ヶ月間、フィンランドのSLEYの教会を訪問して廻る旅をして参りました。フィンランドではちょうど夏休みに入った時期で、学生たちは一斉にキャンプ場などの施設で堅信キャンプが行われている真っ最中でした。最初の一週間は、カルツク

の聖書学校の堅信キャンプの保護者を対象とした聖書講座に参加しながら、この間に、夜には各地の教会や集会で要請された説教やスピーチの準備をして過ごしました。

集会や礼拝での説教は、6月9日(木)午後8時から、カルツクでの堅信キャンプ参加の子どもと保護者への挨拶とインタビューがありました。洗礼を受けた動機は何かを聞かれました。12日(日)礼拝後に短い集会があり、その集会でスピーチ。テーマは「日本ルーテル教会の牧師として働くこと」でありました。質問は震災と原発事故のことに集中しました。同日午後6時にはベルホの教会の集会室で夕べの集会があり、「日本の教会で信仰者として生きること」というテーマでスピーチ。14日(火)ケミンマー教会の集会でスピーチ。15日(水)午後7時から、テルボラの古い木造の教会の家庭集会にて「教会に新しい会員を得るため」にどうするべき



1955～1960年の間、飯田教会宣教師であられ、今年百歳になられたリッポネン先生にお会いする。

午後6時から、ヘルシンキSLEY本部のルターホールにて、学生たちの集まりでスピーチ。24日(金)午後6時からフィンティネンのサスタマラ教会でサマーフェスティバルに参加、集会でスピーチ。26日(日)ヘルシンキSLEYの教会での主日礼拝の説教。題は「永遠の宝物」。28日(火)午後6時から、トゥヒランタSLEYのキャンプ場での集会でスピーチ。案内・通訳はヘイツキネン宣教師。7月1日(金)午後5時から、ラーヘにてSLEYの全国大会オー

プニングセレモニーでの挨拶とインタビュ。2日(土)午後5時から、フィンランド福音ルーテル協会の代表とのミーティング及びラーヘ地方の新聞記者との会見。翌日の地方紙に私へのインタビューの記事が掲載。3日(日)午前10時半から、大会参加者の礼拝、聖餐式配餐と海外への宣教師派遣での挨拶祝賀式に参加。以上が研修の主な日程でした。主として自動車移動。バスと電車での移動もありました。フィンランド南北一往復半。西部へ、東部へ

それぞれ一往復の全旅程の走行距離は2,500キロ以上になるかなりハードな研修旅行でした。日本で宣教師として働かれたリッポネン先生、ペランデル先生、パーボ・ヘイツキネン先生、ライティネン先生、ピルッコ・カリコスキ夫人、カルリオ先生、ソベリ先生、東京のスオミ教会の職員として働かれたマリア・ヴィルクニエミさんたち懐かしい方々にもお会いして来しました。紙面がオーバーしてしまいました。機会があれば今度は研修の内容を紹介したいと思います。

### 士井洋牧師を悼んで 愚直な友は、 主のもとに逝った

引退教師

重富克彦

愚直という言葉は褒め言葉なのだろうか、けなし言葉なのだろうか。今の時代、一般にそれは、冷笑を伴うけなし言葉

葉なのかもしれない。けれどわたしは、第一級の褒め言葉として、我が友士井君は、まことに愚直な人だったと言いたい。その愚直さの中に愛嬌もあつた。そのどちらをも、彼と有縁の者たちは愛した。

で、対話を進めながら絶えず、それを撤回し、試験を受ける時期を計りながらの行為だった。夏も終わり、試験を受けて宣教の現場に出るといふ合意が教会との間にできたとき、彼は一人

かもしれない。わたしが咽頭がんを患い、数ヶ月現場を離れて入院治療をしていたとき、彼は手紙をくれた。万年筆で書かれた、知る人ぞ知る味わい深い字の手紙だ。ところがその手紙には、一言も見舞いの言葉は記されていない。ただ、聖書の原典読みの中の、新しい発見や、これからの研究課題。プルトマンへのこのかわりのことなどが書かれているだけだった。けれどわたしは、その行間に溢れる言葉にならない彼の思いを受け止めた。

で、説教台に立ち続けたと聞く。やはり彼らしい最後だ。愚直な牧師。彼は真実を貫いた。

4月に見舞いに行つたとき、奇跡的にかんが半減していると聞いて、わたしも嬉しかった。あれはまぼろしだったのか。いや、それが、この病のしたたかさであることを、わたしは知っている。

しかし、主の意志がなければその時は来ない。主は彼を召された。今彼は、愚直に真実を献げてきた主と、顔と顔を会わせてお会いすること

が許されている。うらやましくもある。



士井洋牧師(高蔵寺教会) 7月25日逝去、享年70歳

士井君もいた。教会と対話を深めるための手段としてのボイコットだったの

彼は神学生時代に出会ったプルトマンに、やはり愚直に生涯こだわり続けた。今の神学生は、その名さえ知らない

彼が召される直前ま

## もうご覧になりましたか？

東日本大震災ルーテル災害救援ブログ「ルーテルとなりびと」



このブログは、ルーテル教会の災害救援活動の状況を、現地から、日々お伝えしているページです。「となりびとについて」「おすそわけプロジェクト」「現地ボランティアについて」「ボランティア申し込み状況カレンダー」など、きめ細かい情報を提供しています。

<http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/>

住所変更のお知らせ  
野口幹夫先生  
住所：〒475-0087 愛知県半田市銀座本町5-18  
電話：0569-21-5270

本紙8月号4面の「ルーテル救援活動対策本部報告」中、「西日本福音ルーテル教会(藤江副議長)」とありますのは「藤江震災ボランティア担当」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

### お詫びと訂正

全国のキリスト教書店が選ぶ「第1回キリスト教本屋大賞」に、JELC事務局局長立野泰博牧師の著書「神さまのおべんどう箱」(AVACOキリスト教視聴覚センター刊)が第9位に選ばれました。



キリスト教本屋大賞に立野泰博牧師の著書が選ばれました!